

入門看護

第4回

生地

本日のレジュメ

- 看護の意義 (GW)
- 看護の対象の理解
- 看護理論とは

看護とは

人々の健康を尊び、
病気のときにはその苦痛を取り除き、
健康の回復を助け、
健やかな人生を歩むことを支援する
人間愛に基づいた援助行為

人が苦痛を感じるとき

周りにいる人は自然に

- ・苦痛を取り除いてあげようとする
- ・心配する
- ・手助けする
- ・支える



看護師は、専門的な知識・技術・態度を
身に着け、活動し、その役割を果たす

看護の必須条件を表す基本概念

- ・ **安 全** :

物事が損傷したり、危害を受けたりする恐れのないこと

- ・ **安 楽** :

心身に苦痛がなく楽々としていること

- ・ **自 立** :

他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること

看護の目的

患者の安全を守り、苦痛を緩和して
安楽を図り、
日常生活を自立へと導く



健康の回復・保持・増進

健康の回復のための援助

- ・説明をする
- ・相談を受ける
- ・環境を整える
- ・療養計画に沿って援助する
- ・心理的なサポート など

患者の身体的・精神的準備を整え、
苦痛を緩和し安全・安楽を守ることが
早期回復に役立つ

健康の保持・増進のための援助

- 健康な日常生活習慣のための教育相談
（食事・運動・睡眠・嗜好品など）
- 疾病の予防と早期発見
（予防接種・健康診断・定期検診など）

看護の対象の理解

＜人間の3つの側面＞

- ①身体的側面
- ②精神的側面
- ③社会的側面

①身体的側面

人体の構造と機能から、もしくは病態から
食事、排泄、呼吸、運動、睡眠などの
人間の基本的な生活行動を理解する側面

②精神的側面

人間が生活行動をとるときに
感じたり、考えたり、学習したり、
独自の発想をしたりというような
心理や精神活動

③社会的側面

人間が他の人と交流したり、
共に活動したりという人間関係や
社会・文化的影響によって影響を
受けている側面



マズローの欲求段階説

理論とは

- ・科学研究において、個々の現象や事実を統一的に説明し、予測する力をもつ体系的知識
- ・特定の研究領域や個々の学者の学説や見解
- ・実際の経験から離れて純粹に思考の中で組み立てられた知識

看護理論とは その1 その1

- 概念をもち、相互に関連して命題を構成するもの
- 現象の体系的な見方を提示するもの
- 現象を説明、予測するという目的をもつもの

(カーリンジャー)

看護理論とは その2

- ・現象の特性を記述するもの
- ・現象を仮説的に、推察するのに有効である

看護状況や実践のみちしるべとして理論を利用できる

看護理論の構成要素

- 前提

理論における信念などで、事実として正しいと受け入れられているもの

- 概念

理論の主要な構成要素で、頭のなかで形づくったものを表現するラベルのようなもの

- 命題

概念間の関係を記述したもの

理論の種類

- 広範囲理論

看護の広い範囲を対象とする普遍性の高いもの

- 中範囲理論

抽象—具体の中間レベルに相当するもの

- 小範囲理論

最も具体的で限られた特定状況を扱う理論

看護の主な理論家

1860年 フローレンス・ナイチンゲール(環境論)

1952年 ヒルデガルト・ペプロウ(人間関係モデル)

1955年 ヴァージニアA・ヘンダーソン(ニード論)

1971年 ドロセアE・オレム(セルフケア論)

ナイチンゲールの看護概念

- ・看護の目的は、新鮮な空気、光、暖かさ、清潔さ、静かさ、そして適切な食事を提供することである
- ・できるだけよい環境を確保することによって、対象者の回復過程を促進する
- ・環境に対して働きかけるものである
- ・看護は医学とは異なる独立の学問であり、回復過程にある人間を重視する

ペプロウの看護概念

- ・看護は、病気またはニーズを感じている個人と、を受けた看護者との人間関係である
- ・看護の目標は、患者の技能を発達させることによって達成される。これは、問題を解決しようとする相互の協力的な過程である
- ・看護は、データを収集し、問題を明確にする過程で一般から特殊へと進む。基本的な道具として、観察、コミュニケーション、および記録を使用する

ヘンダーソンの看護概念 その1

- 人が援助を受けずに自立できるように助けること。
あるいは安らかな死を迎えられるように援助することである
- 看護の際には、ヘルスケア・チームの他のメンバーと協力し合って活動することが必要である
- 社会科学および人間性についての基本的な知識が必要である

ヘンダーソンの看護概念 その2

- 看護者と患者の関係を形成する過程を通じて、患者が14の基本的ニーズを満たせるように補助する
- 看護は、問題解決のための論理的、科学的アプローチであり、これを通じて一人一人に適した治療を行うことが必要である
- 看護計画を記述し、使用することが必要である

オレムの看護概念

- 看護は一種のサービスである
- セルフケア・エージェントとしての患者の能力を高めることである
- 看護技術、慎重な看護、看護サービス、役割理論、特殊な技術という、複数の構成要素から成る
- 3つの看護システム(全代償、部分代償、支持教育)のうち1つ以上を使用する